第２１期町田市立図書館協議会
第４回定例会議事録（要旨）

日　時　　２０２６年１０月２日（金）１４時３０分～１６時３０分
場　所　　町田市立中央図書館　６階中集会室
出席者　（委　員）小山　憲司、若色　直美、大石　眞二、工藤　成
　　福田　有美子、高橋　峰子、吉田　和夫
　　（事務局）図書館長、図書館統括係長、図書館職員１４名
欠席者　（委　員）石川　深雪、二川原　陽一、仲村　拓真
傍聴者　　０名

○事務局　　それでは定刻になりましたので、ただいまから「第２１期第４回町田市立図書館協議会」を開会いたします。

会の冒頭の進行を務めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

本日の会議ですが、委員７名、欠席委員３名で、定足数である過半数を満たしておりますので、会議は成立しております。欠席された方がご家族のインフルエンザやご自身の体調不良のご欠席と聞いております。皆様も体調にお気を付けいただければと思っております。次に、本協議会は、「町田市審議会等の会議の公開に関する条例第３条」に基づき、公開が原則となっております。本日の傍聴人は０名でございます。

本日は、グループでの話し合いがメインとなります。皆様すでにご着席いただいておりますが、机の配置が島の形となっております。ご承知おきください。

続いて、配布物の確認です。お手元に配布資料一覧をお配りしております。この一覧表と配布資料を比べていただき、不足があれば事務局スタッフにお声がけください。

最後に、発言のルールのご説明をいたします。本日はグループでの話し合いを除いた会議についてＡＩでの議事録作成を試行しております。複数人が同時に発言すると録音が正確にできないことから、発言の際は挙手をして、委員長から指名を受けてください。指名を受けたらマイクを使用し、「お名前を名乗ってから」ご発言お願いいたします。

それでは、委員長、会議の進行をお願いいたします。

○委員長　　皆様こんにちは。お忙しいところお集まりいただきありがとうございます。私も風邪をひいてしまいまして、お聞き苦しい点があるかと思いますがご容赦ください。早速ですが、次第に沿って進めてまいります。

まず次第の１つ目が「図書館評価について」です。資料に番号が記してありますので、そちらも合わせてご覧ください。では事務局から説明をお願いします。

○事務局　　まず資料の説明を行います。事前に送付させていただきましたが、前回の協議会で依頼のあった資料を補助資料として追加しております。

また、副委員長からご質問をいただきましたので、その回答も全体に共有いたしました。ご覧いただければと思います。評価スケジュール、全体の評価の進め方が書いてあるものを手元においていただきながら、この後進めていければと思います。

では、前回説明していないさるびあ図書館と金森図書館について順に担当者よりご説明いたします。

○事務局　　それでは資料８－４に基づきまして、さるびあ図書館の２０２５年度の運営状況についてご報告いたします。

最初に、当館には特徴が３点ございます。

１点目は、移動図書館です。当館で２台保有しており、３７カ所の巡回場所を回っています。この２週間に１回の定期訪問のほか、保育園やイベント会場への出張運行も行い、子どもたちが本と触れ合うきっかけを作っています。

２点目は、学校図書館支援貸出です。小中学校の授業で行う調べ学習のテーマに合わせ、司書が資料を選定し、各学校へ配送するサービスです。

３点目は、充実した読書環境です。２階には８４席の読書室やパソコンの持ち込みが可能な多目的室８席を備えています。静かに読書を楽しみたい方から学習目的の方まで、幅広い年齢層の方にご利用いただいているのが特徴です。

続いて、資料の「２０２５年度の主な成果」の欄をご覧ください。まずは貸出の状況です。貸出点数は約２７万８，０

００点と、前年より増える結果となりました。特に注目していただきたいのが、「予約件数」です。約１万件も増え、年間で約９万件近くに達しました。この大きな要因は、新たに導入した「予約本セルフ受取コーナー」です。利用者からは「自分のペースで気兼ねなく借りられる」「待ち時間が減った」との声もあり数字に表れています。なお、来館者数は減少していますが、入館者数を数える機械の入れ替えの影響によるもので、実際には変わらず多くの方に足を運んでいただいております。

３ポチ目をご覧ください。子ども向けの「おはなし会」などの行事は、延べ４３１人に参加いただきました。折り紙で作成した恐竜の模型を探すイベントや、季節ごとの工作など、図書館を「楽しい場所」と思ってもらえる工夫を凝らしました。次の、学校図書館支援貸出については、市内の小中学校２０校に対し、約２，８００冊を貸し出すことができました。

次に、移動図書館の出張運行についてです。定期巡回に加えて、２０２５年度は４件のイベントに出張しました。来館者数などは記載の通りです。２ページをご覧ください。ここからは、２０２５年度の行事についてです。先ほど紹介しました児童向けのイベントのほか、関係機関との共催事業も実施しております。また、下段には学校などからの依頼を受けて実施した図書館見学などについて記載しています。

３ページ以降は、特集テーマを一覧化したものですので、お時間があるときにご覧いただければと思います。

最後になりますが、さるびあ図書館は開館から５０年を過ぎ、施設の老朽化という課題はございます。しかし、移動図書館による「外へ向かうサービス」と、予約本セルフ受取コーナーのような「新しい仕組み」を組み合わせることで、どの世代の方にとっても利用しやすい図書館を目指してまいります。説明は以上でございます。

○事務局　　金森図書館の「２０２５年度の主な成果」について、２０２４年度と２０２５年度を比較する形で説明させていただきます。

「(第３回) 資料８－５」の１ページをご覧ください。成果指標にあります貸出点数は、約３万１，０００点増加し、２

０２５年度は５７万１，１６９点となりました。来館者数は、システム更改に伴う計測機器入替の影響もあり約７万６，０００人減少し、２０万６，５４１人となりました。

続きまして、基本情報にあります予約・リクエスト件数は、予約本セルフ受取コーナーを設置したことで、約１万７，０００点増加し、１５万７，１４９点となっています。貸出者数は、約１万２，０００人増加し、１４万８，５９５人となっています。

続きまして、来館者数及び貸出数の増加に向けて行った主なイベントについて、紹介いたします。２ページの「児童向けイベント」の表をご覧ください。毎週水曜日と第３金曜日に行っている「おはなし会」につきまして、２０２５年度も児童が興味をもつようにテーマを工夫しました。例えば、夏には“こわいおはなし”をテーマにし、１２月にはクリスマスをテーマにしました。年間参加者は２０２４年度より２６５人増加となる９４９人となりました。

５行目をご覧ください。児童の夏休みにあわせて、クイズ形式の「きょうりゅうクイズにちょうせん」を行いました。参加者は１５６人増加の８０３人でした。

８行目をご覧ください。1月に「新春お楽しみ袋」と名うって、英字新聞で数冊の本を包むお楽しみ袋形式での本の貸出を行いました。

続きまして、その下の「大人/若者向けイベント」の表をご覧ください。２０２５年度は、金森図書館２５周年に因んで、大人向けの読書手帳を配布して、図書館のＰＲを行いました。

続きまして、その下の「他部署からの依頼に基づいて実施した事業」の表をご覧ください。依頼のありました小学校または中学校６校について、図書館見学、職場体験、出張ブックトークを実施いたしました。

続きまして、３ページをご覧ください。特集コーナーにつきまして、季節的なものや時事的なものをテーマにして、利用者の興味を引くような資料の紹介を２０２５年度も行いました。特に２０２５年度は「シニア向け」の特集を３回実施しました。

続きまして、４ページをご覧ください。「コラボ特集」として、町田市役所の保健予防課、障がい福祉課とそれぞれのテーマで関連資料の紹介を行いました。

その他の活動として、金森図書館の２階に自習スペースを設置し、２０２６年１月６日から運用を開始しています。説明は以上になります。

○委員長　　ご説明いただきましてありがとうございました。前回に続きまして、両図書館の様子についてご説明いただきました。

委員の皆様、ご質問はございますか。

○Ａ委員　　細かいことですが、計測機器入れ替えの影響で、ずいぶん来館者数の数字が変わっているのですが、これをどのように理解したらいいのでしょうか。

○事務局　　システムの関係ですので、私が報告いたします。旧システムで使っていた検知の機械と現行のシステムでやっている検知の仕組みが変わっておりまして、細かいところだと、２４時間ずっと点けていたのが旧システムで、多少ズレが生じています。今だと開館時間だけしかカウントしてないということがあります。

もう少し大きな話で言うと検知方式です。外気反射型センサーのように動きにより明暗が変化して、人体や物体を判別するときと、光が遮られたときにカウントする方法があります。それによりどのように違うかというと、多数人数が同時に通ったときのカウントがうまくできないのが今のシステムなので、数が減り気味になってしまうことが発生しております。

○Ａ委員　　来館者数は目印になり、この間もつるぼんが１０万人というのがタウン誌を騒がせていたので、減るのは少し残念だと思いました。ご説明でよく分かりました。ありがとうございます。

○Ｂ委員　　来館者数に関わることですが、機械で検知しているということになると年齢は分からないと思います。小学生、中学生、

高校生、そして１８歳から２０歳なのか、そういうのが分かると、実はいろいろな対策も考えられると思いました。無理でしたら結構です。

○事務局　　ゲートカウンターに関しては、少なくとも光で遮っているのを見る見ないぐらいの差でしかないので、年齢などの判別は難しいという回答になります。以上です。

○副委員長　　さるびあ図書館と金森図書館、両方にお聞きしたいのですが、実習スペースの利用状況として、利用される方の年齢や時間帯が分かれば教えていただけますでしょうか。

○事務局　　さるびあ図書館からお答えいたします。時間や季節ごとによって使われ方が違いまして、やはり夏休みなどの休みの時には学生が多く利用されているのが見受けられます。土日も学生が多いというふうにも見受けられます。平日は、どちらかというとご年配の方が多いという傾向が見られるところでございます。

○事務局　　金森図書館につきましては、小学生、中高生、大学生、大人の４つの括りで見ていますが、それといって人数の違いはないように見受けられます。確かに学校のある時間帯は小学生が少ないということになりますが、土日などは小学生も利用していますので、平均しているかなと見ております。

○副委員長　　利用率は満席に近いのか、それとも空席があるような状況なのでしょうか。満席であれば、物理的に足りないというのを考えられると思うのですが、いかがでしょうか。

○事務局　　さるびあ図書館からお答えいたします。土日や学校の休みのときは満席の日が見られます。あとは、どうしても休みの日でも今年の夏のように暑い時期などは、天候によっても左右されるところがあります。

○事務局　　金森図書館につきましては、自習スペースと言っても６席しかございませんので、土日埋まるときと、天気が悪いとき

には１人２人しか利用していないということもあります。その６席が埋まっていれば、空いてないと思って帰られることも考えられます。ただ、毎回満席だとか、待っている人がいるという状況は、今のところ見受けられていません。

○Ｃ委員　　今日、さるびあ図書館を見学させていただきまして、大変勉強になりましたし、いろいろな点がやはりすごいなと思いました。金森図書館に行けば、また金森図書館ファンになるのかもしれないが、実際に行ってみるのと行かないのでは、全然違うとすごく思いました。

評価ということで、色々な数値や資料も出していただき、我々は話しました。さるびあ図書館は移動図書館を持っていますし、学校図書館との連携も非常によくやっていると思います。しかし、とても大変だな、人数が少ないのによく働いているなという印象を持ちました。そういった、その館のイメージのようなものを出す、さるびあ図書館はこんな図書館ですということを、まずメッセージ性として出すような、そういうことによって今後、評価をしていくことがおおいに考えられるのではないかなと思います。

以前からさるびあ図書館は、非常に頑張っているというイメージを私は持っていますが、実際に行って更に分かりました。また、金森図書館もいろいろと魅力がありそうなので、行ってみたいと思います。そういう魅力を発信していくような評価に、ぜひ今後行ってほしいです。このように個別の館を評価し始めたのは、運営協議会の中で話をしてそのようになり、我々の成果でもあるのですが、そのような評価についての館の見せ方も、今後ご検討いただくとより良いかなと思います。

○Ｄ委員　　本日、さるびあ図書館の方の見学に行かせていただきましてありがとうございました。また金森図書館も、覗かせていただくときがあります。さるびあ図書館の見学後に、質問させていただいたのですが、まだ少し疑問がありますのでお願いします。

さるびあ図書館はすごく年数も経っているので、金森図書館とはまた少し違う感じだと思うのですが、私の印象として

は、やはり死角スペースがかなりあると感じました。上の方に上がらせていただき全体を見回したときに、入り口の方から見えないです。例えば不登校の子どもが昼間に居場所として使った場合や、子どもの人数が少ないときや隅っこで見ていたときに、目が届かないところがあると少し怖いと思いました。カメラがついていないことを確認しましたので、巡回や目配り気配りをしていただきたいと思いました。

最後に見せていただいた２階のスペースなのですが、さるびあ図書館は結構広く感じました。金森図書館は４席なので、そんなに広くはないかと思うのですが、２階で勉強や本を読んだりしているときでも、本の入れ替えなどで、職員さんの目が届いたりできていらっしゃるのかなということも、お聞きしたかったです。

○事務局　　さるびあ図書館では、巡回の方はしてはいないのですが、職員がその日に戻ってきた本などを、逐次配架を行っていますし、清掃の方が、施設内巡回をしたりしています。また、館内掲示板で「いやなおもいやこわいおもいをした時は、すぐ、カウンターの人におしらせください。」と掲示し、対応しています。

○委員長　　ありがとうございます。このあとの議題で時間を取る必要があるため、質問等については、ここまでにいたします。

委員の皆様よりご質問いただいて、図書館側から説明いただきました情報もさるびあ図書館、金森図書館、両図書館の評価の検討材料となります。委員の皆様全員に評価いただくことになっておりますので、本日のやり取りも含めて、コメント、評価をお願いしたいと思います。

続きまして、事務局から説明をお願いします。

○事務局　　それではまず、これから始まるグループディスカッションの説明をさせていただきます。前回の協議会で、今年度の評価対象となる各事業については事務局から取り組み内容や実績、課題などを説明させていただきました。本日、追加で地域館２館、さるびあ図書館と金森図書館について説明させていただきました。

本日のグループディスカッションでは、前回ご説明した事業内容を中心に、委員の皆様から評価やご意見をいただくことを目的としております。なお、時間の関係でさるびあ図書館、金森図書館については本日のグループディスカッションには含めずにお願いいたします。今回、グループディスカッションをした上で、グループとして結論や評価をまとめていただく必要はございません。それぞれのお立場、ご経験から、グループとして評価できる点、改善が望まれるポイントなどについて、率直にお話しいただければと思います。

ファシリテーター役は各グループ、委員長、副委員長にそれぞれお願いしておりますのでよろしくお願いします。こちらの時間、大体４０分を予定しております。各グループには、図書館の職員が進行補助で参加いたします。主にホワイトボードでの書記に従事させていただきます。それから、各グループの録音記録、ディスカッションの記録は残しません。グループディスカッションが終わりましたら、各グループで出された主な意見を全体で共有、発表をしていただきたいと思います。先程も申しましたが、意見をまとめていただく必要はございませんので、このような意見がありましたというような報告で大丈夫でございます。各グループ５分程度で考えております。

また、メールでの事後的な意見や表明の機会がございますので、本日限られた時間の中で全てお話しできなくても大丈夫です。時間内にお話しできなかったことや、会議後改めて気づいた点については、メールでご意見を受け付けます。本日の場で言い切らなくてはならないということでございませんので、まずは特にお伝えしたい点、発言したい点からお話しいただければと思います。本日この場での意見交換と、後日メールでいただくご意見を含めて、事務局で整理させていただいて、次回の評価の作成に繋げてまいります。

最後に、ホワイトボードを目立つ形で置いてあるので気になっている方もいらっしゃると思いますが、あらかじめフレームを設定しておりまして、皆様には発言内容を付箋に書いて貼っていただこうと思っております。

付箋は３色に色分けしております。ピンクが「評価できる点」、青が「課題」、黄色が「その他の意見」として分類し

ております。議論したい点が見えやすくなると思いますので、その内容を元に、討議を進めていただいて、必要があれば書記が追記いたします。ここで書かれた内容がそのまま最終的な評価になるものではございませんので、付箋を書くときは思ったことを書いていただくようにお願いします。

○委員長　　今回付箋を使うことを提案したのは私なので、少し補足いたします。いきなり付箋を書きながら議論するのは大変だと思います。皆さんにお願いしたメールの文面に、予習してきてくださいと記載しておきました。予習してきたものを活用してください。

初めの５分程度を使って、予習してきたものの中から、これはいいと評価した事項はピンク色の付箋に、これは課題なのではないかと思うものは青色の付箋に、ほかに意見が言いたいという内容は黄色の付箋に、それぞれキーワードのようなものでよいので書いてください。５分後にその付箋をホワイトボードに貼りながら、一人ひとりご発言いただき、情報共有していただこうと思います。

副委員長グループには、３つのテーマが割り当てられているため、もしかしたら全ての討議は行えないかもしれませんが、特に白熱した話題がどれなのかということが分かるだけでもいいと思いますので、議論を進めていただけたらと考えます。

では３時４０分を目安に始めてください。事務局には時間管理をお願いします。

［グループディスカッション］

○委員長　　そろそろ、グループ討議を終了といたします。これから発表に入ります。先ほど、事務局から説明があった通り「評価できる点」「課題として挙げられた点」などを中心にご紹介ください。

では、各グループから５分程度で発表をお願いします。副委員長グループから、お願いしてもいいでしょうか。

○副委員長　　こちらのグループは３項目ありましたが、皆さまがすでにそれぞれまとめていたりもして、スムーズに進められました。皆さま、いろいろな思いがありご意見くださいました。

「子ども・若者の読書活動の推進について」ですが、基本的には、評価としていい方向にいっていると思います。若者が興味のありそうな講座やイベントの企画を実施して、９８名の参加があったことは、高く評価できると思います。推進会議の中で、学校とか官民連携で、みんなで一緒に図書館のことを考えていると思います。不読率というものを私たちの方では、ポイントとして考えました。不読率があるからこそ、推進会議があり、不読率の推移があるからこそ、方向性が決まると思いました。その振り返りがどうなっているのかということで、課題として挙げさせていただきました。

私の意見ですが、プランナーがとても頑張っており、プランナーが主体となり自主運営できるように、講師を呼ぶなどのワークショップなども行い、より積極的に図書館について考えてくれる講座になったらいいのではないかと思っていました。そして、このような講座に来ない人たち、参加していない人たち、いわゆる本当に、図書館と距離がある方たちにどう興味を持ってもらうのかというのが、一番の課題なのではないかと意見が出ました。

また、本を読むというのは、ただのペーパーだけじゃなく、いろいろなものを読むという行動があると思うのですが、そのイメージが変わっているのではないかという意見も出ました。イベントの周知も、スマホなどの情報を見ていることが多いと思います。イベシスの活用やインスタも結構回数が上がってきているので、今後も活用したらいいのではないかという意見が出ました。

次に「学びにつなげる図書館体験について」です。レファレンスの充実というところで、レファレンスがなかなか周知していかない部分が難しいところだと思っています。ＡＩやスマホの中で完結してしまうところもあるので、それを社会のインフラとして役割を果たすためにはどうしていったらいいのかということも考えなければいけないと思いました。また暮らしの疑問に答えるという、若者だけではなくてシニア

に向けても、レファレンスというのがあってもいいではないかという意見も出ました。

そして講座の存在を知らない人をどうするのか、講座の内容のＰＲの見直しが必要なのではないかと思います。今までと、漫然と同じようなことをするのではなくて、どう見直していくのか、どう変えていくのかということは、もっと積極的に検討してもいいのではないのかという意見が出ました。そうなると、職員の方の負担増もあるので、ＡＩなどを活用したらいいのではないかという意見も出ました。

移動図書館の活動も、巡回先がいつも同じで、それも安心するというのもありますが、巡回場所の効果の見直しというのはどうやって行われているのかという意見も出ました。

高校生と図書館の繋がりはあるのかという意見も出ました。以前、さがまちコンソーシアムの大学生が移動図書館の動画を作ってくれていましたが、そのようにレファレンスの動画があってもいいのかなと思いました。

「図書館ボランティアの育成と支援について」です。図書館ボランティアの育成と支援は、図書館はよくやっていると意見が一致しました。より回数が増えるといいと思いますし、対面朗読と点訳などのさまざまなボランティアの活動があって、とても良いと思いました。デイジーは、紙にはないデジタルの良いところを使えているので良いと思います。

読み聞かせの講座に出ている人、ボランティアの養成講座に出ている人は、地域に出てそれぞれの絵本の良さを地域に広げていくというのは、とてもいいことだと思いました。これらの事業をこれからも図書館に頑張っていただきたいところだと思いました。また、これが不読率の低減に繋がるのではないかと思っています。以上です。

○委員長　　こちらのグループの担当は、重点事業Ⅱ－３－２３「多様な図書館サービスの提供」と重点事業Ⅲ－２－３３「図書館再編と運営体制の構築」の２つです。とても中身の濃い議論ができました。

まずは「多様な図書館サービスの提供」です。活動指標としては、障害者サービスに関する指標が３つ並んでいましたので、それに関連した話題が中心となりました。

障がい者サービスボランティア養成講座の受講者数が大幅に増えて、裾野を広げる活動となっているのが良い、またこのような講座を継続して企画、運営している努力はとても素晴らしいという意見がありました。

さらに、ＰＲ展示やボランティア養成講座などに図書館ブランナーも協力している点もよいという意見が出ました。加えて、講座に実際に参加した委員からは、多様なサービスや物を実感できるというのはとても評価できるという意見がありました。

その一方で、活動やイベント、サービスが、きちんと市民に伝わっているのだろうかという疑問が寄せられました。周知の問題、広報が少ないというのが課題の一つであると思います。

例えばボランティア養成講座に参加することも大切ですが、一般の人々がこうしたサービスが必要であるとか、こうした活動が行われているということを知ることも大切ですし、実際にそれを求めている人にきちんと届けられているのかという点も重要であると思います。イベントに参加している子どもたちを見ていると、せっかくある活動やイベント、サービスをもっと活用してもらえたらいいのに伝わっていないのではないかと思われ、広報・周知が必要ではないかと感じるという発言がありました。

ボランティアに関しては、間口を広げる努力があっても良いのではないかという意見がありました。興味関心を持っている人や子どもたちは良いが、社会福祉分野に興味のある中高生などに広げられていないのではないかという指摘もありました。さらに子どもたちという観点からは、学校図書館との連携も指摘できます。業務内容に熟知しないと出来ないサービスは、図書館職員としての専門性が求められます。そういった方々の養成や配置も必要であるとの意見がありました。

ホワイトボードに掲示したその他の意見は、ここまでの話と関連しているので、省略します。

もう１つの評価対象事業は「図書館再編と運営体制の構築」です。

活動指標①の「さるびあ図書館と中央図書館の集約」について最も多かった意見は、さるびあ図書館と中央図書館の集

約、金森図書館と役割を分担することについて、市民の皆さんの意見を聞いたり、それを集約したものを提示したりといったことが、２４年度までは盛んに行われていましたが、その後がどうなっているのかなかなか見えて来ないという点です。スケジュールが見えない、今後さるびあ図書館がどうなるのかを市民に示してほしい、そのための計画が分かるような資料を提示してほしい、また意見交換後の市民の声が反映されているのかどうかを知らせて欲しいといった、情報不足等、周知・広報が少ないのではないかということが、一番多く出た意見でした。

その中で、昨年度の評価でも指摘されましたが、指定管理者制度によって運営されている鶴川駅前図書館に関して、評価委員会によるチェックが入っていることは良いという意見が寄せられました。また、「つるぼん」は民間による運営ということで始まりましたが、その成果を評価する意見、中を知っている人間という観点からもとても頑張っているという意見が出ました。

図書館には耳が痛いかもしれませんが、鶴川駅前図書館および「つるぼん」は、行ってみただけでもこれまでの図書館の雰囲気とは少し違うぞというようなものを見せています。それは、民間だからできることかもしれないが、公的な機関であってもできなくはないのではないかという意見もありました。もちろん、特に指定管理者の場合は民間による運営ですので、経営が志向されてのことでしょうが、市民の目から見たときに、そういう印象を与えるというのはとても重要です。その点は、良い点であると同時に、市内の各図書館における課題になると思います。

すべてにおいて共通する課題は、予算です。市民税や地方交付税が増えるわけではないのですが、予算の確保が重要です。予算の確保は図書館活動の活性化という点で重要であり、その意味で、寄附も十分活用する余地があるのではないかとの意見がありました。先ほど、図書館から指定寄附を使って資金を集めたことが紹介されましたが、それを「私たちは知らなかった」ので、このことは先ほどから指摘する広報活動・周知の課題に繋がってくるという意見が出ました。

予算に関連して、予算の範囲内でいかにクオリティを維持するのかという意味において、会計年度職員化というものが考えられるかもしれないが本当にそれでいいのかという考えがある一方、その会計年度職員や鶴川駅前指定管理者制度のスタッフは司書資格を持っていて、そうした人たちがいるからこそ、一定水準以上のサービスが担保されているのであれば、なかなか難しい問題だということを改めて私たちも感じました。

評価の方法、あるいは指針についてです。例えば「つるぼん」はとても頑張っているが、町田市の図書館でどういう位置づけなのか、その位置づけの中で図書館はどう関わり「つるぼん」のことをどう評価するのか、評価の際に「つるぼん」の人たちにちゃんとヒアリングしているのか。どういう形で関わるのかということは、図書館の運営体制というところにも関わってくると思います。さらに、評価をする上で、来館者数や貸出数、蔵書冊数の更新というのは、その図書館の置かれた位置、それぞれの図書館に特徴があります。その特徴を知った上で評価していくということが重要なので、単純に数字だけで測ることができないところもあるのではないかという指摘がありました。グループ討議の結果は以上です。

ただいま各グループから、それぞれ討議内容の報告をいただきました。これから４時５分まで、それぞれのグループで、聞いたことや、ご自分のグループで、さらに追加したいことなど、いろいろな感想を持ったかと思いますので、ご発言いただけたらと思います。

○A委員　　さるびあ図書館と中央図書館の統合についての評価について「機能再編方法について」という資料をいただきました。こちらは、統合された時に図書館側がこのようにしますという内容だと思います。２０１８年に出された、市の公共施設再編計画の中で、２０２６年がこの策定の最終年に置かれているようなのですが、この後の進め方というのは、何か市として方針が出ているのでしょうか。

○図書館長　　特に現時点で方針は示されておりません。これまで皆様からいただいたご意見があり、その中で検討しているという最

中です。元々すごく難しい問題でもございますので、内部で検討を進めておりますので、しばらくお待ちくださいという形になってしまいます。

○A委員　　では、まだ具体的に、金森図書館や中央図書館に移館になることがいつ行動されるかは、今のところはまだはっきりしていないということでよろしいでしょうか。

○図書館長　　公式に方針が出たら、地域の方々に説明に行くことにはなりますので、現時点ではまだお示しできていないということになります。今このように言っていて、すぐに出ることがあるかもしれませんが、まとまり次第、地域の皆様にもご報告をさせていただくということになると思います。

○委員長　　他の方はいかがでしょうか。それぞれのグループの件でも構いません。私からもよろしいでしょうか。

副委員長グループの２つ目「学びにつなげる図書館体験」で、レファレンスサービスの活性化、見える化とＡＩとの関係について指摘がありました。Ｃ委員からも前回、資料を配布いただきました。これに関して、発表されたこと以外にこんな話も出ましたというのがあったら教えていただけたらと思います。

○Ｃ委員　　お手元にビラを配ったのですが、１２月に私の本が出る予定になっています。私は国語教育の人間なので、国語学習になったのですが、本当はもう少し別の考え方、ＡＩを活用することによって人間がどう変わっているのかというようなことを、今後考えていきたいと思っています。

ＡＩを否定しても、入り込み過ぎて否定しえないので、これからどう活用するかどう活かしていくか、さらに言うと、どう人間と協働するかという時代になってくると思います。今日、さるびあ図書館に行ってきて本当に良かったと思いました。そして、隣の保健所を合築した方がいいのではないかとも考えました。そのような無茶なことは言ってもしょうがないと思うのですが、少し自由な視点で考えることが必要だと思います。そして苦労している人たちにＡＩが、どのよう

に役に立つかということも考えていく必要があると思います。また、例えば司書の代行はできないとしても、ＡＩがある程度読書についての方向性を示してくれたり、個別に対応してくれるということもできると思います。そうすると職員の人たちの手間暇がずいぶん減ると思います。

今日、会計年度職員の方が一生懸命頑張っているのを見ました。私は本来、会計年度職員制度は良くないと思っています。なぜかというと差別を生むと考えているからです。

テレビで放送されている「税金で買った本」というドラマがあるのですが、とても面白いので皆さんも見ていただくといいと思います。あれはすごくよくできた内容だと思います。あの中で大切なのは、それぞれの人たちのあり方を考えなければいけないということが一つあります。差別を助長するような、会計年度職員や非正規職員の配置がすごく多くなってしまっているので、それはやめた方がいいのではないかと思っています。そういう事情の中で、皆さん全体を助けるためにＡＩをうまく活用するという方向は、今後も出てきてもいいのではないかと思っています。

ＤＸというと機能的なものばかりを言っているが、もう少し内容的なＡＩの取り扱いのようなものも、今後検討なさるといいのではないかと思います。

私の本ができたら、図書館には寄贈いたします。

○委員長　　ありがとうございました。評価のことについて、次回に向けて事務局から連絡事項があればお願いします。

○事務局　　今後の流れとメールの受け付けについてご連絡差し上げます。本日はグループでの意見交換をありがとうございました。各グループからの報告を踏まえまして、同じ事業についても評価できる点や課題と考えられる点、今後への期待など様々な見方があったかと思います。本日いただいたご意見については事務局で整理して、次回の協議会で改めてお知らせしたいと考えております。

また本日、時間の関係で十分にお話しできなかったこと、会議の後に思い出したことや、お気づきになったこと、本日討議できなかったさるびあ図書館、金森図書館についての評

価については、メールでこの後お寄せいただければと思います。メールの期限は、１０月２０日火曜日とさせていただきます。本日のグループ討議、全体での意見交換、また本日いただく意見を含めて全て整理して、次回の資料としてご提示できればと思っております。

本日はグループのディスカッションをご協力いただきましてありがとうございました。

○委員長　　１０月２０日火曜日までということで、あと２週間と少しです。お忙しい中恐縮ですがご協力いただきたいと思います。

では次第の方へ戻りまして、２つ目は報告事項になります。図書館からご説明をお願いいたします。

○事務局　　図書館からの報告事項のご説明をさせていただきますのでお手元の資料１、図書館からの報告事項をご覧ください。項目１から項目４までありますが、私からは項目１・２をお話させていただきたいと思います。

まず市議会の動向ですが、９月議会が終わりました。９月議会には大きく議案を出しているものと、一般質問、文教社会常任委員会という３つの項目がございました。

議案につきましては、第６７号議案ということで、ビルの高圧ケーブルの更新事業に関する予算を提出させていただいておりました。第８７号議案は、文化スポーツ振興部が、鶴川駅前図書館が入っている緑の交流館の指定管理者の指定に関する議案を出していました。第９０号議案については、我々の鶴川駅前図書館の指定管理者の指定に関する議案を出しておりました。この内容については、前回の図書館協議会の４番「各種計画に基づく取組み」でご報告させていただいておりますので、説明は省略をさせていただきます。

続きまして一般質問ですが、９月議会では図書館に関する質問はございませんでした。

続いて３点目の文教社会常任委員会ですが、第６７号議案から第９０号議案までは、先ほどのご報告した内容を、委員会の中でご審議いただいております。それとは別に、昨年令和７年度の決算の認定審査があり、昨年度の予算の執行状況についてご審査をいただいております。

続いて２番の教育委員会の動向についてご説明させていただきます。８月７日の第５回定例会がございました。こちらについては、前回第３回の協議会での資料、点検及び評価の報告書を議案として提出し、審議いただいております。

駆け足になりましたが、項目の２番までの説明は以上となります。項目３番の方につきましては、引き続き担当からご説明申し上げます。

○事務局　　私からは３の（１）町田市移動図書館の出張運行に関する利用意向調査について報告します。資料２－１をご覧ください。資料の項番に沿って説明いたします。

資料の冒頭に記載しているように、図書館では移動図書館の出張運行の拡大を検討しています。この調査は、保育園・幼稚園といった保育・教育施設や、学童保育クラブなど主に子どもたちが利用する施設に対して移動図書館の出張運行の利用意向を把握するために実施いたしました。

項番１「調査概要」をご覧ください。調査期間は２０２６年６月５日から６月２２日までＷｅｂフォームで調査を行い、４５施設から回答をいただきました。

次に、項番２「調査結果概要」をご覧ください。こちらは、資料として添付している報告書の要旨となります。詳細は資料２－２をご覧ください。（１）は、施設側の移動図書館の利用意向を把握する設問、（２）は、回答があった施設が現在の移動図書館の車両サイズで運行できるか確認するための設問の調査結果でございます。

（１）の利用意向について、回答のあった４５施設のうち利用意向があった施設は３９施設でした。（２）の移動図書館の駐車スペースの有無について、４５施設のうち現在の移動図書館の車両サイズで利用可能な駐車場がある施設は１１施設でした。また、車両が侵入可能な園庭や校庭がある施設は１２施設でした。このうち重複分を除いた移動図書館車両が進入可能な施設は１７施設でした。この１７施設のうち現地調査を行った結果、１２施設が現在の車両サイズで運行可能であることを確認しました。一方で、利用意向があるものの、現在の移動図書館の車両サイズでは運行できない施設が多いことも併せて確認しました。

続いて、２ページ目をご覧ください。（３）は、出張運行時の選書の参考とするための設問の調査結果でございます。施設で人気のある本の分野は、絵本が一番で次に知識系の児童書、次に紙芝居といった順番でした。具体的な書籍名やシリーズ名を挙げて回答いただいた施設もあり、その数も集計しております。詳しくは資料をご確認ください。

最後に、項番３「今後の方向性」をご覧ください。利用意向調査で希望した施設のうち現在の車両サイズで運行可能な施設と調整したうえで、２０２６年１０月以降に新たに希望した施設での運行を実施する予定です。また、現在の車両サイズで運行できない施設や車両の老朽化などを踏まえて車両の小型化に向けた検討を引き続き進めていく予定です。私からの説明は以上となります。

○事務局　　私の方からは３．（２）中高生向けレファレンス講座：謎解きゲーム「まちクエ２０２６」の実施結果についてご報告します。資料はございません。

前回ご案内した通り、謎を解くために図書館内を巡りながら各コーナーや図書館の使い方も分かってくるというゲーム仕立てのイベントです。７月１８日から８月３０日まで夏休み期間に開催いたしまして、参加者総数２９９人、昨年度より多くの方にご参加いただきました。クリア者数１８２人、クリア率６１％となりました。

まちクエ入門講座は２回開催いたしまして、１４人の参加がありました。感想では「図書館のいろいろなコーナーをめぐれて楽しかったです」「検索機の使い方や本の並びが分かったのは良かったです」「ちょっと難しめでしたがこれくらい歯ごたえがあってもいいので来年も開催してほしい」などのお声をいただきました。

続いて４．その他です。４．（１）「空中図鑑」＆「空中冒険ツアー」を体験しよう！の実施結果について報告します。資料３－１をご覧ください。

こちらは夏休み期間に子どもたちの未知の事柄への探求や自由研究のきっかけになればと企画したものです。インターマン株式会社の協力で「空中コンピューター」を活用した「空中図鑑」＆「空中冒険ツアー」を体験しよう！というイ

ベントを開催しました。資料３－２のポスターの写真でイメージが沸くか分かりませんがご覧ください。空中に立体映像を浮かび上がらせて、それを非接触で操作できるものです。映し出された昆虫などを手の動きで回転させたり、引っ張ると大きくしたりできます。空中図鑑のテーマとしては「昆虫」「植物」「水生生物」「宇宙」がありました。この機械を８月１１日から８月３０日まで中央図書館４階児童カウンターの前に設置して利用者に体験していただきました。近くに自然科学や自由研究など関連した本の展示も行いました。親子連れの方などに興味を持って体験していただいておりました。

「空中冒険ツアー」はこの空中映像のしくみや、虚像と実像の違いを、クイズを交えた講義や体験を通して楽しく学べるイベントで、８月２３日に実施しまして、参加者は１３人となっております。

次に４．（２）デジタル本棚の活用による特集棚の周知について説明します。資料４をご覧ください。

こちらは市内各図書館で実施している特集棚を「デジタル本棚」を活用してもっと広範囲に発信することにより、利用者に特集情報を効果的に届けて、図書館利用の促進を図るものです。株式会社タテオキの技術を活用してＷｅｂ上で書架を眺めるような体験ができます。入口は図書館ホームページのトップページにあるスライドバナーから専用外部ページへ遷移します。資料のイメージ図を見ていただくと「最近追加・更新した棚」の隣に人名があり、ここに図書館の特集テーマが入る形になりまして、その横に特集の本の背表紙が並ぶというイメージになります。ほぼ実際の本の背表紙になっていまして、背表紙を選択いたしますと表紙の画像と紹介文などが表示されるようになります。この本を読んでみようかなと思った場合に、そこから図書館の資料画面に移るという仕組みになっております。こちらは現在準備中で、１０月８日に開始予定になっております。図書館ホームページから入れるようになっておりますので、お試しをしていただければと思います。以上になります。

○事務局　　（３）その他のガバメントクラウドファンディングの実施についてご報告をいたします。資料番号はないのですが、本

日お配りした『ガバメントクラウドファンディング、子どもたちの「読みたい！」を支える児童書拡充事業』の、募集チラシをご覧ください。先ほど委員長の発表の中でも、取り上げていましたが、ふるさと納税の関係のお話になります。

今年度もガバメントクラウドファンディングとして、１０月１日から１２月２３日まで、約３ヶ月間寄附を募集いたします。このガバメントクラウドファンディングは、一般的なふるさと納税と異なりまして、使い道を特定した期間限定の寄附となります。寄附者が応援した事業に対して、寄附するという特徴となっております。今回の図書館の事業は『子どもたちの「読みたい！」を支える児童書拡充事業』ということで、概要は、子どもたちの興味を引く絵本や児童書の充実を図り、子どもたちの読書習慣の向上を目指すことになります。いただいた寄附の使い道としては、人気の本や児童書の購入・買い替えになります。図書館利用者に向けたＰＲを１０月１日から現在行っております。

内容としましては、通常の広報として、チラシやポスター等の掲示、ホームページ、Ｘへの掲載を行っておりますが、その他に館内のセルフ貸出機にＰＲ用のＡ６版のカードを掲示する、予約確保のメール等、メールマガジンに一文を加える、また窓口に来る方にチラシをお渡しすることなどを実施しております。目標金額は１００万円となりますので、皆さんもぜひ周りの方に宣伝していただけたらと思います。よろしくお願いいたします。説明は以上でございます。

○委員長　　今、図書館からの報告事項ということで、いくつかございました。これらについて委員の皆様からご意見、ご質問などございますでしょうか。

［　特になし　］

次第は最後、３のその他事項になります。委員の皆様から何かご質問、ご発言などありますでしょうか。なければ僭越ながら、私からお話しさせてください。

改めまして、本日ご参加いただいた委員の皆様には、このような形でグループワークを行っていただきありがとうござ

いました。付箋を使って書く時間がとても足りないことになってしまい、大変恐縮でしたが、それでもグループごとで、それぞれの委員の皆様がどんなことを考えているのか、どんなご意見をお持ちなのかということを、少なからず意見交換はできたのではないかと思います。

ただ、これだけで評価というのは終わりません。改めまして、いろいろな人の意見を伺いながら、最終的に委員の皆様一人ひとりが、一つひとつの言葉についてどのように感じたのかということを、ご意見をお寄せいただけたらと思います。また、さるびあ図書館と金森図書館のことは、本日は意見交換できませんでしたので、こちらもよろしくお願いします。

改めまして、皆様には短時間で慌ただしくはありましたが、濃密で楽しかったであろう時間をお過ごしいただけたと思います。ご協力いただきまして本当にありがとうございました。また図書館の皆様も、ご準備・ご協力いただきまして本当にありがとうございました。お礼申し上げます。

では、事業局の方にお戻しします。

○事務局　　さるびあ図書館の見学会、参加された方も含め長時間お疲れ様でした。グループ討議で使用し付箋を貼ったホワイトボードの写真は、後ほど撮影をして共有をさせていただきます。

次回の開催は１１月２０日金曜日を予定しております。次回ですが、金森図書館の見学会を協議会開始前の１３時から１４時の間で行う予定です。見学会後は中央図書館へ移動し、協議会の開始時間は１４時３０分を予定しております。

金森図書館の見学会につきましては、集合場所など内容が決まりましたらご連絡をいたします。見学会に参加できない方は、１４時３０分までに中央図書館にお集まりいただきますようよろしくお願いいたします。

第２１期第４回町田市立図書館協議会は以上となります。

皆さまお疲れ様でした。ありがとうございました。